

一般質問

■七尾市産後ケア事業について
費用負担軽減の考えはあるか？

質 七尾市産後ケア事業は、出産後の育児不安や身体的回復までの支援、家族からの家事・育児支援が受けられず子育てに不安を抱えている方のための少子化対策施策であるが、この事業の相談件数と利用件数を伺う。

この事業での利用者負担が近隣自治体と比較しても多額になっているが、子育て環境の充実を掲げている七尾市としてこのような格差に対する考えと費用負担軽減により出産後の不安解消に努める考えはないのか伺う。指定医療機関との話し合いと現状把握に努め、できる限りの減額をお願いする。

答 七尾市での利用者負担は委託料の3割相当で、県内の多くの市町が七尾市並みの料金設定である。

今後、若い夫婦世帯など、所得の低い世帯もこの事業を無理なく利用できるよう、まずは、非課税世帯の負担軽減について検討していく。



木下 敬夫 議員 (あすなろ)



●産後ケア事業の相談件数

令和2年度	52件
令和3年度	72件
令和4年度 (8月末現在)	43件

●産後ケア事業の利用件数

令和2年度	デイサービス型 1件 (3日間)
令和3年度	宿泊型 1件 (2泊3日)
令和4年度 (8月末現在)	デイサービス型 1件 (1日)

※対象者を令和3年度から産後4か月であったものを1年未満にまで拡大

一般質問



木戸 奈諸美 議員 (あすなろ)



■子ども教育・子育ての充実について
■新型コロナウイルス感染症の現状と対策、
今後の施策について

子ども・子育て地域支援事業補助金制度の復活を！
助金制度の復活を！

質 悩みを抱える子供や親を支えたいと活動している地域の方や団体から、令和2年度で廃止された子ども・子育て地域支援事業補助金制度の復活を望む声が寄せられているが、この補助金制度を復活できないのか伺う。

また、長引くコロナ禍や感染拡大により、病院職員、消防職員、市役所職員の業務負担やストレスなどの増大が考えられるが、職員の人員配置は不足していないのか、休暇はとれているのか、また、離職率は増加していないのか伺う。

答 今後、地域づくり協議会が主体となつて実施するのであれば、

例えばふるさと創生ゆめ基金やコミュニティ交付金等を活用していただき、健康福祉部でも相談を受けるし、それでもなおかつ基金等が必要だというお話があれば、新たな基金を創設するというのも一つの案と考えている。

毎月の時間外勤務の状況や四半期ごとの年次有給休暇の取得日数の状況等を逐次確認しながら、適正な人員配置となるように今後も努めていく。

感染拡大の前と後の比較 (主に令和元年と3年の比較)

- 年次有給休暇取得数 ⇒ ほとんど変わりなし
- ストレスチェックによる高ストレス該当者数 ⇒ 感染拡大前と大きく増えていない
- 自己都合による退職者数 ⇒ ほぼ同程度

一般質問

■トキ放鳥に対する農業従事者支援について
農家に所得補償を！

質 トキ放鳥の候補地として能登地域が選定された。大いに歓迎するが、克服すべき課題も多く工夫と努力が必要だ。1つは餌場の確保。2つ目は農業従事者の理解と協力を得るための努力。3つ目は所得補償。

中でも所得補償については、餌場確保に協力することで、米の収穫量の減少が予想される。ブランド化に成功し収入が安定するまでの間、農業従事者への所得補償が必要だ。場合によっては、旗振りをしている県にも応分の負担を求めるべきだ。

「口は出すが金は出さない」というのであれば、それはトキではなくサギだ。いかがか。

答 能登地域トキ放鳥受入推進協議会による佐渡への視察や七尾市による学習会を計画している。学習会では、農業関係者や市民に映像を通して理解を深めてもらい、トキが舞う七尾の実現を目指し、まずは理解と協力をし合う機運の醸成を図っていききたい。

所得補償は研究課題と受け止め、協議会に話しかけていききたい。トキの放鳥を、県外、世界に発信し、この地域に多くの方が訪れることによる経済効果等も含めて得た収益を従事者に分配するなど、逆にトキの放鳥によって所得が増えるような取組を考えていきたい。



山添 和良 議員 (無会派)



トキが舞う里山 (イメージ)